

授業改善等に関する報告書（2023年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2023 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
Webテクノロジー演習	河井 延晃	<p>本授業はWebテクノロジー演習のため、演習科目としての開講となりました。</p> <p>まず「Ⅲ全体について」は、総じて高い評価となっています。総合的満足度(4.50)、意欲的な取り組み(4.50)などですが、一般に全体で低くなりがちな「14 自分に成績をつけるとしたら」も4.50となっています。</p> <p>しかし、「Ⅰあなた自身について」「Ⅱこの授業の内容と方法」のなかで特に低い項目に注意して、改善点を示します。Ⅰは理解度も平均を超えて、全体科目の平均と比較しても高い状況です。ただし、授業の満足度などの関連を見ると必ずしも、予習復習時間を増やせばよい問題ではないように考えます。</p> <p>そこで、「Ⅱこの授業の内容と方法」の低評価項目(唯一の4を切る項目)として、授業の説明の理解度が低い点に注目します。本授業は予習のやりやすいテキストを教科書に指定していますが、予習については「出来れば通読」程度の指示として、課題を重視していました。予習をもう少し徹底した上で、理解度を確認したり反転学習であることをきちんと説明して進めてゆくことで、単に予習時間を規定を満たすために増やすというだけでなく内実の伴った事前学習となると考えます。また、事前学習により、授業での解説内容を理解しやすくなる下地となります。これは、オリエンテーションできちんと教員が説明する事も重要と考えます。</p> <p>また、テキストの分量自体が多いので、あまりテキスト外の内容を加えずテキスト重視にこだわることも一つの改善方法かと考えます。</p>
グローバル社会	倉持 一	<p>私たちはグローバル社会の中で生まれ生活し、さらなるグローバル化の渦中にいます。この授業は、社会のグローバル化を企業の文脈から分析し、その背後にある光と影を考える内容でした。良し悪しではなく、悩みながらも前進していくことの重要性を学んでもらえたと思います。</p>
コミュニティ概論	須賀 由紀子	<p>コミュニティ形成や持続可能な地域のあり方について修得していただけたようでよかったです。今後も地域づくりのニュースなどに興味を持っていただければと思います。</p>
ゼミナール	倉持 一	<p>今年度のゼミナールでは、以前よりも活動の幅を広げただけではなく、成人として学外の関係者と遣り取りをするという仕組みを強めました。社会連携によって、皆さんの視野は広がり、考えの幅も拡張したと思います。それも履修者がお互いを尊重し、個性を認め合いながら協働した結果だと思えます。</p>
ゼミナール	河井 延晃	<p>本授業はゼミの通年科目として開講しました。各種発表や調査報告だけでなく、企業との連携プロジェクト(LLMの現状とサービス提案)をおこないました。</p> <p>授業アンケートについては、「Ⅲの全体について」のうち、前期の「総合満足度」が上昇(4.78→5.00)となり、他も高い数値となりました。</p> <p>ただし、この中で最低値となっている項目「14. この授業で自分に成績をつけるとした場合の自己評価」が4.0となっています。全体の平均が3.82でありこれも本授業は平均値を上回っているものの、前期でもこの項目だけがやや低めの数値となっていました。</p> <p>これは高い問題意識を学生が持ち、企業の方をお呼びしての発表会の後に、色々な反省点があったのでは無いかと推測します。しかし、このゼミではそうした点はむしろ糧として、4年生のファイナルプロジェクトにつなげていって欲しいと考えます。もちろん、企業の方からの色々なご指摘があったと思いますが、頭ごなしにだめだと指摘されたチームは無かったと思えます。</p> <p>4年生のファイナルプロジェクトでは、これより難しいことをやるというよりは、時間をかけて3年生のゼミで習得した手法を役立ててもらおう予定です。(実はファイナルプロジェクトで新しく追加することはそれほど多くありませんのでご心配なく！)</p>
ゼミナール	犬塚 潤一郎	<p>研究の基本構成とその遂行について、いったん経験できたことは次年度の本格的な取り組みの準備として、意義あると思います。一層の飛躍を期待します。</p>
ゼミナール	須賀 由紀子	<p>地域の現場の中で、実践的にたくさん経験を積んでいきましょう。皆さんで作っていくゼミでの活動が、地域の中で本当に求められています。一つひとつ、できることを協力しあって、また作っていきましょう。</p>
ゼミナール	行実 洋一	<p>全体的に高い評価を得ることができたが、授業満足度でやや不満を感じる学生もいた。内容面やスケジュール、実施方法などを改めて見直し、より改善していきたい。</p>

[2023 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ビジネスプランニング	倉持 一 上野 亮	アンケート結果では説明の分かりやすさは4.48、資料の分かりやすさは4.66、授業の満足度は4.38となっており、総合的に見れば、十分な評価を得られたと認識しております。 授業では、最初にグループワークの基礎を学び、その後、経営学の観点からビジネスプランニングの方法を学ぶ。最後にこれまでの学修成果を活かし、実際に企業が提示するビジネス課題の解決に挑戦し、課題提示企業からのフィードバックを受けるといった内容でした。本授業は1年生の必修授業ということもあり、PBL形式の授業を体験し、社会で活躍する方々からフィードバックを受ける(学外の方に提案し、その評価を受ける)という点を重視した授業としました。企業の方たちに向けて、企画提案を行うという緊張感を持って、課題に取り組んだこともあり、成長が実感できたかの評価は4.59となっており、具体的に成長を実感したことの記述回答でも、「客観的に物事を考える力がついた」、「論理的に考え、まとめ、相手に伝える力がついた」といった回答がありました。本授業を通じて、グループワークの取り組み方、ロジカルプレゼンテーションの仕方等、様々な面で成長ができたようです。 今回の授業を通じて、学修してきた内容は、将来、社会に出てからも必要とされるスキルです。ここで学修してきた内容は、ぜひ、今後も活かしてもらえればと思います。
フィールドリサーチc	上野 亮	アンケート結果では授業の満足度は4.39、資料の分かりやすさでは4.52となっており、十分な評価を得たと認識しております。 本授業では地域コンテンツを作成するに当たり、グループワークとして、現地調査や取材を実施してもらいました。今回作成したのは、比較的簡単に作成できるブログ記事でしたが、それでも、事前の下調べや取材先との交渉等を経て、内容に気を付けながら、広く公開されるコンテンツを作ることの大変さを実感してもらえたと思います。一方、自由記述欄には「実際にリサーチなどにも行き、友達も増えて楽しかった」、「コンテンツ作りが楽しかった」といった回答もあり、調査を通じたコンテンツ作りの大変さだけでなく、楽しさを実感してもらえた方もいるようで、授業担当者としては、良かったと思っています。本授業で実施した、グループワークや計画立案、関係者との交渉といったことは、将来、様々な場面で求められます。今後も本授業で学修してきたことを活かしてもらえればと思います。
プロジェクト基礎演習b	須賀 由紀子 合原 勝之	この授業は物事をデザインしていくために必要なスキルを身につけていくことをねらいとしています。その理解を確かめながら授業をすすめていきたいと思っています。
プロジェクト基礎演習c	須賀 由紀子	リアルな地域課題への対応策を考え、提案するという授業の中で、得たものも多かったと思います。皆さんの真摯な取り組みがあったので、現場からのフィードバックをきちんといただけたこともよかったです。皆さんのアイディアから、実際に新たな動きが生まれたりしています。この授業での経験を、ぜひまた次に活かしていただければと思います。
プロジェクト基礎演習d	行実 洋一	授業内容、及び学生の取り組みについても高い評価を得ることができた。引き続きこの方向性を維持しつつ、よりブラッシュアップを図りたい。
プロジェクト実践演習b	須賀 由紀子 合原 勝之	プロジェクトへの関わり方はそれぞれだったと思いますが、各自感じていただいたこと、プロジェクトを実践していくために必要なことを次の経験に活かしていただければと願っています。
メディアアート論b	犬塚 潤一郎	アートについて、個別作品レベルだけではなく、ある概念に沿って解釈を重ねてゆく経験を、楽しんでいただけたと思います。作品世界は広大です。今後も様々なテーマと楽しみの発見を。
メディアコミュニケーションb	河井 延晃	本授業は、2年生以上を対象とした対面授業として開講しました。 アンケートの解答について授業の最後に設定しましたが、解答が無いため次年度以降はもう少し時間をとって解答を徹底させるなどの対応が必要と考えます。
メディアプロデュース論	行実 洋一	全体的に授業内容、及び学生の取り組みなどの点で高い評価をもらえた。引き続き、現在の方向性を維持し、よりそのブラッシュアップを図りたい。
メディア経営論演習	犬塚 潤一郎	少人数の演習授業で、丁寧にテキスト読解と対話を進めることができました。学術方法の修練が進んだことと思います。卒業研究、また今後のご活躍に活かされますよう。
家庭経営c (育児・介護)	蟹江 教子 笠原 良太	具体的な事例をもとに説明したり、統計データなどを用いることで、具体的に学べるように工夫した。その結果、肯定的な評価が多く見られた。次回以降も同様の手法で授業を展開したい。
家庭経営論	高橋 桂子	教職履修組の皆さん、これから専門を極めていく上で仲間との連携は欠かせません。渋谷キャンパスでの補講を思い出して、大変な時こそ友達と助け合う。苦難も何のその！ 楽しく、逃げずに、何事も乗り切っていきましょう。数年後には教員としての新たな人生がスタートですね。期待しています。またお会いしましょう。
環境マーケティング論演習a	犬塚 潤一郎	今年度は課題領域を絞り込み、詳細なことに向かい合うように進めました。外国語文献も、AIのアシストで対応できるようになりましたね。今後の研究に活かされますように。
環境マーケティング論演習b	倉持 一	この授業の内容は、実際に先進的な企業が採用している分析フレームワークを用いて、現代の環境問題を切り口を構造解析し、新たな戦略を描くという学生にとっては困難なものでした。しかし、少人数でグループワークに積極的に取り組んでもらえたことで、授業の意図を理解してもらえたと思います。

[2023 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
環境思想演習	犬塚 潤一郎	少人数演習で、丁寧に本を読み進めましたので、それぞれに手ごたえを感じていただけたと思います。学術書の読解の技術を今後も磨いてゆかれますよう。
企業研究 a	倉持 一	この授業は、社会課題の解決に向けたアクターとしての企業が、どのようなロジックで経営活動を行っているのかを理解すると同時に、理想である「強さと優しさの両立」をいかに図るべきかを学ぶものでした。消費者ではなく企業の立場で授業が進んだため、難しい場面もあったと思いますが、履修者の皆さんの真摯な態度が理解度などにも反映されていると思います。
基礎メディア技術	河井 延晃	<p>本授業は基礎メディア技術として、対面授業での開講となりました。</p> <p>※まず、本科目はコロナ以降はオンデマンドにも対応出来るように、「ITパスポート」テキスト準拠として3年間の開講を継続していました。500ページ近いテキストはかなり内容的に盛りだくさんになり、次年度以降はひとまず「ITパスポート」準拠ではない科目として開講予定です。</p> <p>アンケート結果を踏まえて、以下これらの改善案を提示します。 なによりも、「ITパスポート」のテキストを教科書指定していたものの、「I あなた自身について」の「2予習復習の時間」もさらに増やす仕組みを検討する必要があります。テキスト自体は予習や自学自習しやすい構成となっているものですが、そもそも内容に対する動機付けがないまま本授業を行なうのは難しかった様に考えます。また、なによりも年々ITパスポートのテキストが肥大化しており、消化不良を起こしている状況もあるように思います。 次年度は授業内容（テキスト類）は変わりますが、事前学習の徹底や動機付けを意識した授業設計としたいと思います。</p> <p>本年のアンケートも踏まえ、本科目に関しては、学生のニーズとのマッチングなども考えて、次年度からは「IT」パスポート準拠でない、新しい内容に更新する予定です。</p>
現代社会を読み解く c (文化と市場)	河井 延晃	<p>本授業は1年次配当科目で、対面の講義科目として開講となりました。</p> <p>まず「Ⅲ全体について」は、総合的満足度 (4.06)、意欲的な取り組み (4.29) などですが、ここでは「I あなた自身について」「Ⅱこの授業の内容と方法」のなかで特に低い項目に注意して、改善点をしめします。 Iは、「2. この授業の予習復習時間」をさらに増やす仕組みを検討することも必要です。1年次の科目として、比較的重い課題を出さないように勤めたつもりでしたが、この点は改善が求められます。 そのために、本授業はテキストを設定しているため、テキストの予習（通読）などを設定することで、授業の理解度を高めることが可能となると期待できます。</p> <p>また、「Ⅱこの授業の内容と方法」では、「双方向授業などの工夫 (4.29)」「板書やパワーポイント (4.29)」などに対して、「授業の進むスピード (3.88)」として低評価項目となっています。この点、詰め込みすぎないようにゆっくり進捗を管理することで、理解度をさらに上げることも可能かと思えます。</p> <p>特に、次年度はテキスト自体を新しく薄めのものに変える予定です。今回のアンケート結果をうまく反映させて改善を行ないたいと考えます。</p>
現代生活学	犬塚 潤一郎	社会事象の複雑な構造を読み解き、論理的に表現し対話へと結び付けてゆくこと。それは、単純化と対立が繰り返される現代の様相に巻き込まれずに生きてゆくための技術です。毎回の授業後課題は難しかったと思いますが、皆さんの生きる現実はいっそう難解さに満ちています。学の方法を支えとして築きましょう。
広告とメディア	行実 洋一	全体的に各項目とも非常に高い評価を得ることができた。この方向性を維持しつつ、内容面のアップデートを恒に心がけたい。
社会責任論	倉持 一	この授業は、社会の一員として存在感を増している企業が市場だけではなく社会に対していかなる責任を負うのかという非常に困難なテーマを扱っています。それに加え、社会的責任には時代の変化はあっても正解はなく、掘みどころのない理論が多々展開されていますので、経営学部ではない皆さんにとってハードルは高かったと思います。しかし、現在、企業の社会的責任は無視し得ないものであり、多くの学生が今後企業の社会的責任を考えながら仕事をすることによって理解し、この授業の内容を参考に自分の考えを示していってもらえればと思います。
女性社会論 b	須賀 由紀子 倉持 一	専門性の異なる二人の教員がそれぞれの観点で示す女性社会を、履修者が的確に学んだことが伺えます。女性社会を自分なりに解釈し、いかに自分の人生を考えていくかという学びの狙いは基本的に達成できたと考えます。
生活産業史	倉持 一	授業の理解度や満足度といった主要な質問項目において高い評価を得られたことは、履修者の真面目な履修態度の影響もあると思います。また、コメントも前向きなものばかりであり、この科目の学びを今後の就職活動などにも活用してもらえればと思います。
地域エネルギー論	犬塚 潤一郎	社会の現実に対して、政策や経済的な要件を理解したうえで、問題を把握し対策を構想する、その全体的な構造と手順を理解できたと思います。今後、ケース・スタディを加えてゆかれますように。課題はもう少し多く出した方がよかったですでしょうか？
地域文化形成論	須賀 由紀子	地域づくりに大切な考え方について、理論を背景に、具体的事例をもとに学び、持続可能な地域のあり方への視点を深めていただけたようでよかったです。皆様それぞれの身近な問題として、興味を持ち続けていただければと思っています。

[2023 (後期) 現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
統計とモデリング	上野 亮	<p>授業の満足度は4.00でしたが、授業が統計やデータ分析を扱う内容のため、そもそもの題材から難しいこともあり、理解度は少し低くなってしまいました。今年度も、シラバスに記した通り、ある程度、PCやExcelの扱いに慣れている学生が履修することを想定していましたが、実際には基本的な操作に不慣れな学生も受講していたように見受けられました。結果として、PC関連の操作に不慣れな学生ほど、PCスキルと統計の考え方の両面からの理解が必要になり、授業難易度を高く感じる状況になってしまったようです。</p> <p>また、授業の進むスピードの適切さ、説明の分かりやすさ、どちらも3.67とやや低い数値になっているため、次年度の授業に関しては、教科書の範囲を全て網羅するのではなく、内容を取捨選択して、重要な部分を丁寧に説明する(翌授業で振り返りの時間を確保する)のに対し、あまり利用機会が無い内容は、簡単な説明にとどめる等、メリハリをつけて、限られた時間を有効活用できるよう工夫をしたいと考えております。</p>